

【助成 38-50】

「掛かりつけ農家」をハブとする社会的ネットワークの経済的合理性と頑健性の検証

代表研究者 石川県立大学生物資源環境学部 准教授 山下良平

〔研究の概要〕

環境保全型農業を実践する複数の農家の実態を予備的に調査した後、そのうちの 1 人である西田氏(2016)が提唱する「掛かりつけ農家」という概念に着目した。この概念は、掛かりつけ医のように日常的な信頼関係を築く農家と消費者の間の関係を指す。本研究では、掛かりつけ農家を持つ消費者とそれ以外の一般消費者との間で、購買行動の経済的・倫理的合理性の差異を WEB 調査によって検討した。また、現在のコロナ禍や災害などの非定常期における食材調達に関する経験についても質問し、レジリエンスに関する優位性の有無を確認した。その結果、2 つの消費者グループ間に購買基準において有意な差異が確認されたほか、掛かりつけ農家を持つ農家には「災害時に作物を入手しやすかった」「価格高騰時にも通常価格で商品を購入できた」など、非定常期におけるレジリエンスに関する優位性が確認された。

〔研究経過および成果〕

はじめに

本研究では、環境保全型農業を実践する複数の農家の実態を予備的に調査した後、そのうちの 1 人である西田氏(2016)が提唱する「掛かりつけ農家」(掛かりつけ医になぞらえた、日常的に信頼関係を構築する農家と消費者の関係)という概念に着目した。そして、掛かりつけ農家を持つ消費者とそれ以外の一般消費者との間で、購買行動の経済的・倫理的合理性の差異を WEB 調査によって検討した。加えて、昨今のコロナ禍や災害など非定常期での食材調達関連の経験を問うことで、レジリエンス的優位性の有無を確認した。調査の全体像と結果は以下の通りである。

調査概要

具体的な調査内容は以下の通りである。

【題目】農産物の購入判断に関するアンケート

【期日】2022 年 12 月 22 日

【方法】Web 調査

【対象地域】福井県、石川県、富山県の 20 歳以上

【サンプルサイズ】掛かりつけ農家の有無(スクリーニング項目)を均等に、800 サンプルずつ合計 1600 サンプル程度。

【割り付け】男女比を均等に(年代は割り付け無し)、可能な限り各県同数を目指して。

【主な質問内容】①個人属性、②農産物・加工品・果物の購買理由(複数選択してもらい順位付け)、③1 か月あたりの農産物・加工品・果物の購入金額を月平均金額、④新型コロナウイルス感染拡大期や激甚災害期など社会の混乱期において食料調達に困った体験の有無、⑤その他食料調達以外で、掛かりつけ農家をもったことで得た機会や経験

結果と考察

得られた結果の一覧は以下の通りである。

【有効回答数】1,674

【年代別の掛かりつけ農家の有無】図 1

【購買意思に見る差】図 2

【レジリエンス】図 3, 図 4

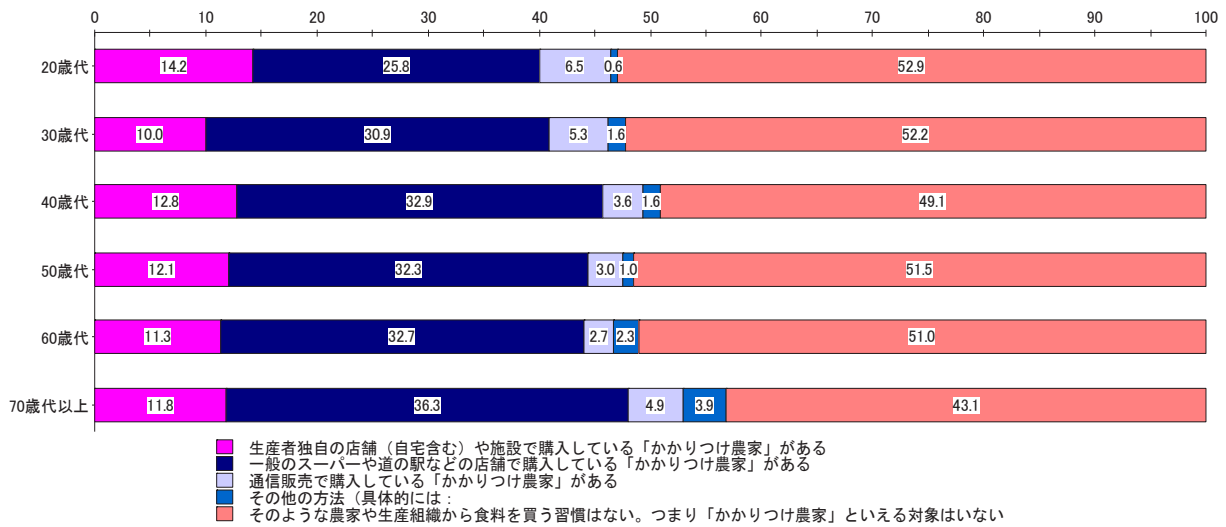


図1 回答者の年代×掛かりつけ農家の有無

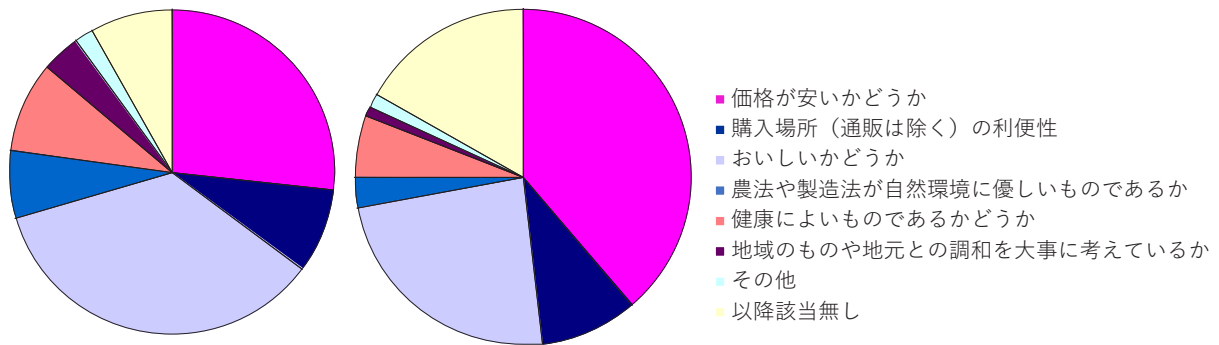


図2 掛かりつけ農家の有無 (左:あり, 右:なし) 別の購買基準

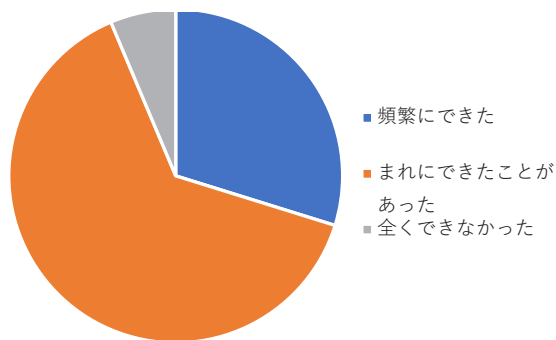


図3 非定期の購買不便状況で掛かりつけ農家からは難なく購入できたか？

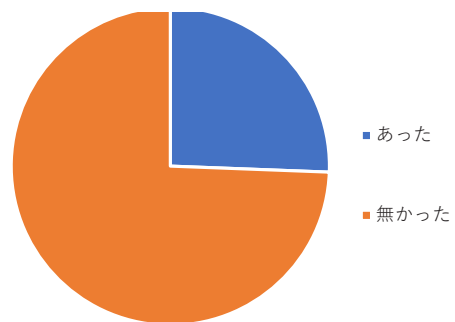


図4 あなたの周囲で、同様に非定期の購買不便状況で掛かりつけ農家からは難なく購入できた例は？

結論

農産物・加工品・果物の購買基準における非定期におけるレジリエンス機能を確認し、仮説は一定程度支持された。経済的合理性は単に価格が安いものを購入できるという意味ではなく、レジリエンス的な考

え方に依拠する場合には、新しい定義による経済的合理性と解釈することもできる。頑健性(持続性)については、継続的な調査によって検証する必要がある。

[発表論文] 該当無し

[参考文献] 西田栄喜(2016) 小さい農業で稼ぐコツ